

## 平成 27 年度特別企画展 「被爆 70 周年 広島市の被爆樹木」 について

泉川康博・木原靖正

### はじめに

当園では、毎年テーマを変えて、2～3ヶ月程度の長期展示を特別企画展として開催している。本年は広島に原爆が投下されて70年目にあたり、市内の他施設においても被爆関連の展示やイベントが多く開催されることから、当園では被爆により焼け焦げながら再び芽を吹いた被爆樹木を特別企画展のテーマにとりあげることにした。被爆60年目にも、特別企画展「広島市の被爆樹木」を開催しており、その後10年の間に起きた被爆樹木を取り巻く状況の変化などについて、取り上げることとした。

### 被爆樹木とは

広島市では、爆心地から概ね2km以内で被爆した樹木を被爆樹木として登録している。この中には被爆当時の場所に現存しているもの、移植を受けたものがある。また、インドハマユウのような草本も含まれている。一方、江波山にあるヒロシマエバヤマザクラのような、爆心地から2km以上離れた場所で被爆した樹木は、登録の対象から外れている。現在約170本の木々が登録されている。

### 取材活動

平成26年12月に、被爆樹木標識を更新するための予備調査が行われたので、それに当園スタッフも参加した。調査に参加したのは、グリーン・レガシー・ヒロシマ・イニシアティブの山田英子氏、樹木医の堀口力氏、広島東南ロータリークラブの錦織亮雄氏、筑波大学の調査チームからは鈴木雅和教授、王尾和寿先生、大脇なぎさ氏、長年被爆樹木に携わっている広島市職員などであった。この調査では、土地管理者による立ち入り許可が必要な箇所を中心に回り、幹径などの測定を行い、標識の取り付けに必要な金具のサイズを決めるためのデータを取得し、写真撮影を行なった。

平成27年3月14日には基町交番前の被爆ク

スノキに、一般の方もご覧いただける公開治療が施されたので、樹木医の堀口力氏が治療について解説する様子を動画に収録した。この公開治療は広島市平和推進課が平成13年から毎年実施している被爆樹木樹勢回復事業の一環として行われているもので、10年前の企画展の開催時は、あまり大きく取り扱っていなかったが、今回は約8分の動画コンテンツの上映という形で紹介した。



写真1 基町交番前のクスノキ

また、4月～5月の新緑の時期に、立ち入り許可の必要でない公園や公道にある被爆樹木を巡り、パネルに掲載する写真撮影などを行った。

### グリーン・レガシー・ヒロシマ・イニシアティブの発足

10年前と現在で、最も変わった点といえば、2011年にユニタール（国連訓練調査研究所）とANT-Hiroshimaが共同でグリーン・レガシー・ヒロシマ・イニシアティブ（以下GLHと略）を立ち上げたことであろう。この団体は、被爆樹木を守り、その種や苗を世界中に配布することを通じて、広島から平和のメッセージを届けることを目的としている。2015年までに、被爆樹木の種子や苗木を送り届けた国や地域は25カ国に上る。当園もワーキンググループのメンバーとして、種子の保存や送付に協力している。2015年には広島東南ロータリークラブと合同で被爆樹木の標識を更新する活動を行っており、本企画展では、それも含めてGLHの活動をパネルと約10分の動画で紹介した。

### 展示に向けての試行錯誤

展示の性質上、被爆樹木そのものを展示室に

搬入し展示することは困難で、どうしても被爆樹木の写真を交えたパネルによる解説が中心とならざるを得ない。しかし、それでは展示会としての魅力に欠けると思われた。そこで、写真解説以外にさまざまな展示の工夫を凝らすこととした。1つ目は、展示の閲覧者が持ち帰れる物品や情報の提供である。「展示を見るだけで終わり」では味気ない。その後に繋がる何かを提供したいと考えた。2つ目は、被爆樹木に関連する実物の展示である。実物の説得力は、やはり写真や文章のそれを上回ると思われた。3つ目は、新しい情報の提供である。10年前の企画と全く同じではいけない。4つ目は、動画メディアの使用である。写真や静止画に比べ臨場感を感じていただけることが期待される。5つ目はメッセージ性のあるもの、例えば芸術作品などの展示である。

1つ目は後述する被爆樹マップの配布、2つ目は被爆クロマツ切株や被爆樹木の苗木の展示、3つ目は最新の被爆樹木の研究成果やグリーン・レガシー・ヒロシマの活動を伝えるパネル展示、4つ目は、被爆樹木の公開治療やGLHの活動を紹介する動画の上映、5つ目は被爆クロガネモチの襖絵、被爆樹木のフロッタージュ、「緑の伝言」ポスターの展示という形で実現することとなった。

一方、企画の段階で検討したものの、見送りとなったものもある。被爆樹木に関連する楽曲のCDなどの演奏、被爆樹木から作った楽器の展示、平成13年3月に堀口氏によってまとめられた被爆樹木調査と現状の比較、10年前に展示した被爆エノキの切株の展示などである。特に15年前と現在の被爆樹木の比較が出来なかったのは残念であったが、企画や調査にかけることのできる時間は限られており、やむなしとした。

### 被爆樹マップの配布について

本企画展では、被爆樹木に興味関心を持った来園者が、実際に被爆樹木を訪れることを促進するため、被爆樹マップを配布することとした。そこで、広島市平和推進課の被爆樹木保護活動の支援を目的として発足した「緑の伝言プロジェクト」の一環として、2009年に堀口力氏が監修し中国四国博報堂が制作したマップを、改定の上、増刷させていただくこととなった。マップ

は東回り、西回りの2種類を各3,000部用意し、展示室入り口で配布したほか、関連イベント開催時にも参加者に配布した。

また、本企画展の被爆樹木紹介パネルは、この被爆樹マップの写真やイラスト、文字データを、中国四国博報堂の許諾をいただき、作成したものである。

### 実物展示について

樹木医の堀口力氏が饒津（にぎつ）神社の枯死した被爆クロマツの切株を所有していることを知り、出展をお願いした。この切株の年輪には1945年から十数年間、年輪幅が極端に狭まっていることが確認でき、原爆の惨禍を伝える資料となっている。また、後述の東京農業大学の林隆久教授による研究成果や岡部昌生氏による被爆樹木のフロッタージュ作品もこの被爆クロマツの切株に関連したものである。



写真2 饒津神社の被爆クロマツの切株

また、堀口氏のご厚意により、被爆樹木の苗木（イチヨウ、ツバキ、クスノキ、カキノキ、クロガネモチ、フジの幼苗各1本計6本）を展示することが出来た。

### 被爆樹木に関する最新の研究成果について

東京農業大学の林隆久教授からは、前述の被爆クロマツの分析結果のデータをパネルに使用

させていただく許可を得ることができた。また、筑波大学大学院の大学院生、大脇なぎさ氏からは、被爆樹木の多くが爆心地側に向かって傾斜していること示す興味深い現象を、3枚のパネルデータにまとめていただいたので、それをそのまま掲示した。

### 美術作品の展示

広島女学院大学の教授で造形家の三柘正典氏には、平成25年度特別企画展『蘭花譜展』の関連イベントとして開催した『花の版画 木版画講習会』の講師を務めていただいたことがきっかけで、翌年、当園の茶室に蘭花譜をモチーフにしたふすま絵を描いていただいた。その後、頼山陽史跡資料館の敷地内にある頼山陽居室に、三柘氏が居室前にある被爆クロガネモチを描いたふすま絵を納めたことを知った。ふすま絵の趣旨が今回の企画展のテーマにふさわしいと考え、頼山陽史跡資料館に作品の貸し出しをお願いしたところ、快諾していただき、展示することができた。

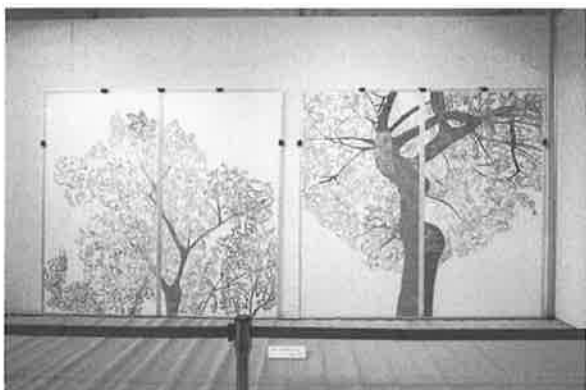


写真3 頼山陽居室襖絵（三柘正典作）

また、期間途中の8月からの展示となったが、造形家の岡部昌生氏による、被爆クロマツの年輪や、天満小学校のプラタナスの樹肌をフロタージュした作品を展示した。

また、中国四国博報堂が企画・制作し、GLHが保管してきた「緑の伝言」プロジェクトの美しいポスターを、2005年から14年までの過去10年分借り受けし、展示した。この際、不足分のフレームをGLH側で用意していただくなど、多大な協力を得た。また70年目の原爆忌である8月6日には2015年の新作ポスターが発表され、追加展示した。



写真4 緑の伝言ポスター

### メッセージボードの設置

展示室の出口付近に樹木のシルエットのパネルを用意し、木の葉の形をした色紙にメッセージを記入していただき、パネルに貼り付けしていただいた。色紙のデザインや切り抜きには植物公園ガイドボランティアの黒田真理子氏に多大なご協力をいただいた。期間中、計324名の来園者から平和や原爆、被爆樹木、展示の感想などのメッセージをいただいた。

### 関連イベント

関連イベントとして、被爆樹木探訪を7月19日（日）に開催した。朝9時に原爆ドーム前に集合したときは雨混じりであったが、ほどなく止み、講師の堀口力氏の説明を聞いた後、爆心地、白神社や平和大通りの被爆樹木、平和記念公園、青少年センター裏、ファミリープール前、基町交番前、RCC前を經由し、広島城内で12時に解散した。参加人数は28名であった。マスコミの取材も複数あり、被爆樹木への関心の高さをうかがえた。



写真5 平和記念公園のアオギリ前で解説する堀口力氏

また、被爆樹木講演会を園内講堂にて7月26日（日）に開催した。こちらも講師を堀口力氏

にお願いし、被爆樹木の現状や保存活動について解説をいただいた。参加人数は42名であった。



写真6 講演会で解説する堀口力氏

### 最後に

本企画展のために、多くの関係者から多大なご協力をいただき、この場で感謝を申し上げます。担当者自身、この企画に携わるまでは、被爆樹木のこと、それがどこに生えているかも知らない状態でのスタートであった。この企画を通じてヒロシマのこと、そして被爆樹木をこんなにも大切に想って活動されている方がいらっしゃることを知り、大変勉強になった。また担当者の勉強不足、取材不足があり、果たして皆様の想いを来園者に伝える展示となったか不安な部分もあったが、どうかご容赦いただきたい。